聖ホセマリアの生涯 -58

創立者は最初のためをすってのでである。 おいたのでするですがですがですがですがですがですがですがですがですがでいいがででかられていいがでででいいがででいいがででいいがででいる。 では、考リーい人でいいがでいいがでいた。 では、まないでは、まないではいいででは、まないでは、 でいるでは、 でいるでがないがいがいます。 1946年6月初めてローマの土を踏んだあと、聖ホセマリアはローマとスペインを何度も行き来すること・デオのように、当時はまだオプスペインにのように、全体の統治もスペインからで、全体の統治もスペインの戦まれ、たる必要がありました。

他方、創立者は最初からオプス・デイが特定の国のためではなく、全世界で活動をするものと考えてい中心であるローマに置くのがよいとう勧くにこれました。そこでバチカンの続けるカプス・デイについて説明を続けるカプス・本部のための家探しを始ました。

イタリアは戦後の混乱のまっただ 中。不動産の価格は低く、立派な邸 宅を安く手に入れることができまし た。色んな物件を調べているうちに ブルノー・ブオッチ通りとヴィ リャ・サケッティ通りに挟まれた、 元ハンガリーの対バチカン大使館が 売りに出されていることを知りまし た。資金のあてがない中、聖ホセマ リアはただ神の助けを信じて家の獲 得に動きます。不可能に見えた困難 を乗り越え契約を結び、1947年7月 に引っ越ししました。この家をヴィ ラ・テベレと呼びました。

家は通りに面した門とその隣にある 守衛の住居、そして敷地の中心に建 物(写真参照。この写真ではすでは 拡張工事が始まっている)があまったが、そこには元大使館職員たち が不当に居座っていました。そこ で、聖ホセマリアたちは玄関の時 に住むことに。窮屈な生活、暖房 しのローマの冬などで創立者は顔面 神経痛になり、ドン・アルバロも病気に倒れることがありました。なによりも苦しい問題は資金の不足でした。

1948年2月、ハンガリー人たちが出ていき、敷地全体を所有することになりましたが、次はここを本部として機能する建物に改築、増築する仕事がはじまりました。この時期も創立者は頻繁にスペインに行きました。一つの目的は寄付を募ることでした。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/seijosemaria-58/ (2025/11/30)